

記録に登場する田中城

大河ドラマの主人公として注目を集める明智十兵衛光秀は、安曇川町田中に城跡が残る田中城（上寺城）に深い関わりがあったことが分かっていきます。今回は、そのことを示すいくつかの資料を紹介いたします。

『信長公記』への登場

江戸時代初期に太田牛一という人物があらわした『信長公記』は、天下統一を目指した織田信長の一代記として知られています。著者の太田牛一は、信長の右筆（秘書役）として長年信長に仕えた人物です。その太田牛一が実際に自分で見た事実を含めて正確に記しているのが、史料としての信頼性は高いと考えられています。

その『信長公記』に「高島郡の田中の城」が3回登場し、そのうち2回には明智光秀が関係しています。

田中城は、安曇川町田中の上寺集落の背後の山に遺構が残る山城で、松蓋寺という寺院の跡を再

利用して造られました。城を築いたのは、近江源氏・佐々木氏の一族で、田中周辺を本拠地としていた田中氏であると考えられています。

1回目の登場は、元龜元年（1570）の4月に、織田信長が京から越前へ向かう途中で、高島の田中の城に泊まったという記録です。この時、信長は越前の朝倉義景を討つために湖西を通り、途中、自分の妹婿であった浅井長政の勢力下にあった田中城に宿泊



したと考えられます。

この直後、浅井長政は信長に離反し、田中城は、信長の敵方の城となりました。『信長公記』での次の田中城の登場は、元龜3年3月に信長が高島郡の浅井・朝倉軍を攻撃した時の記録で、この時、明智光秀は信長軍の将の1人として、田中城を攻撃しています。

翌元龜4年7月に田中城は落城し、『信長公記』にはその時のようすも記されます。これが田中城の3度目の登場になります。この時、信長は「大船」を使って湖上からの攻撃を行い、同時に陸上では「木戸・田中西城」を攻めたと書かれています。そして、降参した木戸城と田中城を与えられたのが、明智十兵衛光秀である、と『信長公記』は伝えていきます。恐らくは、この戦での光秀の働きが大きかったためだと思われる。

新発見の古文書

最近、この田中城が登場する新発見の資料として紹介されている古文書があります。熊本藩の家老を世襲した米田家に伝来した文

書群の中の1点です。この文書は、本来の文書の裏に書かれたもので、いつの時代かに転写されたものと考えられますが、内容は、永禄9年（1567）に明智光秀が田中城に籠城していたことをうかがわせるものです。先に紹介した『信長公記』の記事以前に、光秀が本当に田中城にいたことがあったのか、現段階では確実なことは分かっていません。ただ、このように古い記録を確認したり、新しく発見された古文書を検証したりすることで、今後、新たな事実が明らかになっていくでしょう。

文化財課 (25) 8559

令和元年度もこの3月でいよいよ終わりを迎えますね。本年度は皆さんにとってどのような年度だったでしょうか。昨年の4月から新しい場所で新しい生活が始まった方もたくさんおられたと思います。わたし自身は、広報担当となって3年が経過しようとしています。まだまだ力不足ですが、広報チーム一丸となって、今後も創意工夫を重ねて、読みやすく身近に感じてもらえる「広報たかしま」をお届けしていきます。よろしくお祈りします！（Y.O）

編集感